



共通のポリシー

- [AddContactProtocolRateLimit](#) (3 ページ)
- [AddContactProtocolTimeLimit](#) (4 ページ)
- [AlertOnAvailableEnabled](#) (4 ページ)
- [BlockAccessoriesManagerPlugins](#) (4 ページ)
- [CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled](#) (4 ページ)
- [CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema](#) (5 ページ)
- [ClickToCallProtocolPermissionEnabled](#) (5 ページ)
- [ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled](#) (5 ページ)
- [CommonCriteriaEndCallTimeout](#) (6 ページ)
- [CTIWindowBehaviour](#) (6 ページ)
- [DeskPhoneModeWindowBehavior](#) (6 ページ)
- [DetailedLogDurationDesktop](#) (7 ページ)
- [DetailedLogDurationMobile](#) (7 ページ)
- [Disable_MultiDevice_Message](#) (7 ページ)
- [Disallow_File_Transfer_On_Mobile](#) (8 ページ)
- [EnableAccessoriesManager](#) (8 ページ)
- [EnableADLockPrevention](#) (8 ページ)
- [EnableBFCPVideoDesktopShare](#) (9 ページ)
- [EnableCallPickup](#) (9 ページ)
- [EnableCiscoChatProtocol](#) (9 ページ)
- [EnableCiscoIMGroupProtocol](#) (9 ページ)
- [EnableCiscoIMProtocol](#) (10 ページ)
- [EnableCiscoTelConfProtocol](#) (10 ページ)
- [EnableCiscoTelProtocol](#) (10 ページ)
- [EnableClickToCallProtocol](#) (11 ページ)
- [EnableConvertNumberToURI](#) (11 ページ)
- [EnableForensicsContactData](#) (11 ページ)
- [EnableGroupCallPickup](#) (11 ページ)
- [EnableHuntGroup](#) (12 ページ)

- [EnableIMProtocol](#) (12 ページ)
- [EnableLocalAddressBookSearch](#) (12 ページ)
- [EnableLotusNotesContactResolution](#) (13 ページ)
- [EnableLotusNotesCLibrarySupport](#) (13 ページ)
- [EnableMediaStatistics](#) (14 ページ)
- [EnableOtherGroupPickup](#) (14 ページ)
- [EnableP2PDesktopShare](#) (14 ページ)
- [EnableProfileProtocol](#) (15 ページ)
- [EnablePromoteMobile](#) (15 ページ)
- [EnableProvisionProtocol](#) (16 ページ)
- [EnableSaveChatToFile](#) (16 ページ)
- [EnableShareProtocol](#) (16 ページ)
- [EnableSingleNumberReach](#) (17 ページ)
- [EnableSIPProtocol](#) (17 ページ)
- [EnableSIPURIDialling](#) (17 ページ)
- [EnableStatusProtocol](#) (18 ページ)
- [EnableTelephonyProtocolRateLimit](#) (18 ページ)
- [EnableTelProtocol](#) (18 ページ)
- [EnableTelProtocolPopupWindow / CiscoTelProtocolPermissionEnabled](#) (18 ページ)
- [EnableVideo](#) (19 ページ)
- [EnableVoicePush](#) (19 ページ)
- [EnableXMPPProtocol](#) (20 ページ)
- [ForceC2XDirectoryResolution](#) (20 ページ)
- [ForceDevicePin](#) (20 ページ)
- [ForceFontSmoothing](#) (21 ページ)
- [ForwardVoicemail](#) (21 ページ)
- [InitialPhoneSelection](#) (21 ページ)
- [InstantMessageLabels](#) (22 ページ)
- [LegacyOAuthLogout](#) (22 ページ)
- [LogWritingDesktop](#) (23 ページ)
- [LogWritingMobile](#) (23 ページ)
- [MuteAudioByDefault](#) (24 ページ)
- [Meetings_Enabled](#) (24 ページ)
- [PreferP2PDesktopShare](#) (24 ページ)
- [PresenceProtocolRateLimit](#) (25 ページ)
- [PresenceProtocolTimeLimit](#) (25 ページ)
- [PreventDeclineOnHuntCall](#) (25 ページ)
- [PrintIMEnabled](#) (25 ページ)
- [ProfileProtocolRateLimit](#) (26 ページ)
- [ProfileProtocolTimeLimit](#) (26 ページ)
- [ProvisionProtocolRateLimit](#) (26 ページ)

- ProvisionProtocolTimeLimit (26 ページ)
- ProvisionProtocolTimeLimit (27 ページ)
- Push_Notification_Enabled (27 ページ)
- Recent_Chats_Enabled (27 ページ)
- RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices (27 ページ)
- RememberChatList (28 ページ)
- ScreenShareAuditMessages (28 ページ)
- selfcareURL (29 ページ)
- SelfMuteTone (29 ページ)
- ServiceDiscoveryExcludedServices (29 ページ)
- ServicesDomainSsoEmailPrompt (30 ページ)
- SharePortRangeSize (30 ページ)
- SharePortRangeStart (30 ページ)
- ShareProtocolRateLimit (31 ページ)
- ShareProtocolTimeLimit (31 ページ)
- ShowSelfCarePortal (31 ページ)
- SoftPhoneModeWindowBehavior (32 ページ)
- SSO_Enabled (32 ページ)
- TelemetryEnabled (32 ページ)
- TelemetryEnabledOverCellularData (32 ページ)
- TelemetryCustomerID (33 ページ)
- TelephonyProtocolRateLimit (33 ページ)
- TelephonyProtocolTimeLimit (34 ページ)
- Telephony_Enabled (34 ページ)
- UserDefinedRemoteDestinations (34 ページ)
- Voicemail_Enabled (35 ページ)
- VoiceServicesDomain (35 ページ)
- WhitelistBot (35 ページ)

AddContactProtocolRateLimit

Synergy デバイスの Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザが URL 付きの連絡先を連絡先リストに追加した後に相互起動できる回数を指定します。Add Contact スキーマを使用して、ユーザの連絡先リストに URL 付きの連絡先を追加できます (contact= username@cisco.com など)。たとえば、AddContactProtocolRateLimit が 3 で、AddContactProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、Cisco Jabber で Add Contact スキーマを相互起動できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : <AddContactProtocolRateLimit>10</AddContactProtocolRateLimit>

AddContactProtocolTimeLimit

Synergy デバイスの Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザが URL 付きの連絡先を連絡先リストに追加した後に相互起動できる制限時間を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例 : `<AddContactProtocolTimeLimit>10</AddContactProtocolTimeLimit>`

AlertOnAvailableEnabled

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがアベイラビリティ ウォッチ リストに連絡先を追加できるようにします。

- `true` (デフォルト) : ユーザはアベイラビリティ ウォッチ リストに連絡先を追加できます。
- `false` : ユーザは、アベイラビリティ ウォッチ リストに連絡先を追加することができません。

例 : `<AlertOnAvailableEnabled>>false</AlertOnAvailableEnabled>`

BlockAccessoriesManagerPlugins

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabra や Logitech などのサードパーティ ベンダーからの特定のアクセサリ マネージャ プラグインを無効にします。プラグイン DLL ファイルの名前は、値として設定する必要があります。複数の値はカンマで区切ります。

Microsoft Windows の例 :

```
<BlockAccessoriesManagerPlugins> JabraJabberPlugin.dll,lucpcisco.dll
</BlockAccessoriesManagerPlugins>
```

CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

コールが終了したときに、元のアプリケーションに戻るか Jabber に留まるかをユーザに確認するダイアログボックスを表示するかどうかを指定します。

- `true` (デフォルト) : ダイアログボックスが表示されます。
- `false` : ダイアログボックスは表示されません。

例：

```
<CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled>>false</CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled>
```

CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザは、元のアプリケーションの起動に使用される URL にパラメータを指定できます。CrossLaunchBackSchema は、相互起動できる許可アプリケーションスキーマのホワイトリストです。各スキーマに追加のパラメータを指定して、そのパラメータを使ってアプリケーションを起動できます。元のアプリケーションを起動するためのスキーマに特定のパラメータを設定できます。たとえば、http に対して Web サイト「www.cisco.com」を設定できます。スキーマと追加パラメータを指定した後、追加のスキーマを指定するにはセミコロンを使用します。

- none (デフォルト) : リストはありません。
- *schema_names* : 許可されたアプリケーションタイプをセミコロンで区切ったリスト。

例：<CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema>AppSchema1://parameter1;
AppSchema2</CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema>

ClickToCallProtocolPermissionEnabled

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスは、ユーザが clicktocall: uri リンクをクリックした後、Cisco Jabber を使用してコールを発信するかどうかを確認するための情報を提供します。

- true (デフォルト) : ダイアログボックスが有効になり、Cisco Jabber を使用してコールを発信するかどうか、ユーザに確認を求めます。
- false : ダイアログボックスが無効になり、確認を求めることなくコールが発信されます。

例：<ClickToCallProtocolPermissionEnabled>>false</ClickToCallProtocolPermissionEnabled>

ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスは、ユーザが clicktocall: uri リンクをクリックした後、Cisco Jabber を [編集してコール (Call with edit)] オプションに使用するかどうかを確認するための情報を提供します。

- true (デフォルト) : ダイアログボックスが有効になり、Cisco Jabber を [編集してコール (Call with edit)] オプションに使用するかどうかユーザに確認を求めます。

- `false` : ダイアログボックスが無効になり、確認を求めることなくコールが発信されます。

例 :

```
<ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled>false</ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled>
```

CommonCriteriaEndCallTimeout

Windows 版 Cisco Jabber、iPhone および iPad 版 Cisco Jabber および、Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

CC_MODE のインストール引数または EMM パラメータを展開することによって、共通基準モードで Jabber が実行されている必要があります。CC_MODE を展開すると、CommonCriteriaEndCallTimeout パラメータが自動的に有効になります。これによって、アクティブな通話中に、ユーザが別の発信者から特定の期間にメディアデータを受信しなかった場合、その通話は自動的に終了します。デフォルト値を 300 秒に変更することができます。

例: `<CommonCriteriaEndCallTimeout>60</CommonCriteriaEndCallTimeout>`

CTIWindowBehaviour

Cisco Jabber for Mac で使用します。

ユーザがデスクフォン制御モード (CTIモード) でコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- `OnCall` (デフォルト) : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation)] ウィンドウが表示されます。
- `Never` : コールへの応答時に [会話 (Conversation)] ウィンドウは表示されません。

Cisco Jabber for Windows の以前のバージョンでこのパラメータを設定した場合は、このリリースでも引き続き使用できます。ただし、代わりに `DeskPhoneModeWindowBehavior` パラメータを使用することを推奨します。

例 : `<CTIWindowBehaviour>Never</CTIWindowBehaviour>`

DeskPhoneModeWindowBehavior

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザがデスクフォン制御モード (CTIモード) でコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- `OnVideo` : [会話 (Conversation)] ウィンドウはビデオコールに対してのみ表示されます。
- `OnCall` (デフォルト) : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation)] ウィンドウが表示されます。

- Never : コールへの応答時に [会話 (Conversation)] ウィンドウは表示されません。

例 : <DeskPhoneModeWindowBehavior>Never</DeskPhoneModeWindowBehavior>

DetailedLogDurationDesktop

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

LogWritingDesktop パラメータに値 UserCanEnable を設定すると、デスクトップ クライアントがディスクにログを書き込む時間数を定義できます。定義した期間が経過すると、すべてのログがディスクから消去されます。

このパラメータの値を指定しない場合 (デフォルト) 、クライアントはログをディスクに無期限で書き込むか、またはユーザが詳細ロギングを無効にするまで書き込みます。

例 : <DetailedLogDurationDesktop>10</DetailedLogDurationDesktop>

DetailedLogDurationMobile

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

LogWritingMobile パラメータに値 UserCanEnable を設定すると、モバイル クライアントがディスクにログを書き込む時間数を定義できます。定義した期間が経過すると、すべてのログがディスクから消去されます。

このパラメータの値を指定しない場合 (デフォルト) 、クライアントはログをディスクに無期限で書き込むか、またはユーザが詳細ロギングを無効にするまで書き込みます。

例 : <DetailedLogDurationMobile>10</DetailedLogDurationMobile>

Disable_MultiDevice_Message

クラウドおよびオンプレミスの展開に含まれるすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

複数のデバイスのメッセージング機能を無効にします。

- True : 複数デバイス メッセージング機能を無効にします。
- False (デフォルト) : 複数デバイス メッセージング機能が有効です。ユーザは、サインインしているすべてのデバイスのすべての送信メッセージと受信メッセージを確認できません。



(注) 複数デバイスメッセージングはファイル転送または画面キャプチャをサポートしていません。ファイルは、ファイルを送信または受信したアクティブなデバイスでのみ使用できます。

例：

```
<Disable_MultiDevice_Message>true</Disable_MultiDevice_Message>
```

Disallow_File_Transfer_On_Mobile

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがモバイル上でファイルを送受信できるかどうかを指定します。

- **true**：ユーザはモバイルでファイルを送受信できません。
- **false**（デフォルト）：ユーザはモバイルでファイルを送受信できます。

例：<Disallow_File_Transfer_On_Mobile>true</Disallow_File_Transfer_On_Mobile>

EnableAccessoriesManager

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントのアクセサリ API を有効にします。この API は、アクセサリのベンダーがヘッドセットなどのコール管理機能を有効にするプラグインを作成できるようにします。

- **true**（デフォルト）：アクセサリ API を有効にします。
- **false**：アクセサリ API を無効にします。

例：<EnableAccessoriesManager>>false</EnableAccessoriesManager>

EnableADLockPrevention

すべてのクライアントに適用されます。

管理者は、失敗したサインイン試行の最大数に対して Active Directory サーバを設定することができます。この設定によって、一部の Jabber 展開で、誤ってアカウントがロックされる場合があります。例えば、SSO 認証のない展開では、すべての Jabber サービスが、同じ誤ったログイン情報を AD サーバーに送信することができ、これにより、失敗回数が急速に増加します。

この問題が発生した場合は、EnableADLockPrevention を使用して、同じ誤ったログイン情報を AD サーバーに送信されないようにすることが可能です。使用できる値は次のとおりです。

- **true**: Jabber は、1 つのサービスが無効なログイン情報エラーを受信した後に、同じログイン情報を持つすべてのサービスを停止します。
- **false** (デフォルト): Jabber は、無効なログイン情報エラーを無視し、引き続きサインインを試行します。

例: <EnableADLockPrevention>true</EnableADLockPrevention>

EnableBFCPVideoDesktopShare

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

BFCP ビデオ デスクトップ共有機能を有効にします。詳細については、『*Planning Guide for Cisco Jabber*』の「*Screen Share*」の章を参照してください。

- true (デフォルト) : クライアント上の BFCP ビデオ デスクトップ共有を有効にします。
- false : BFCP ビデオ デスクトップ共有を無効にします。

例 : `<EnableBFCPVideoDesktopShare>>false</EnableBFCPVideoDesktopShare>`

EnableCallPickup

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが自分のコール ピック アップ グループ内のコールをピックアップできるかどうか指定します。

- true : コール ピックアップを有効にします。
- false (デフォルト) : コール ピックアップを無効にします。

例 : `<EnableCallPickup>>true</EnableCallPickup>`

EnableCiscoChatProtocol

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `ciscochat:` プロトコルのプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscochat:` プロトコルのプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは `ciscochat:` プロトコルのプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoChatProtocol>>false</EnableCiscoChatProtocol>`

EnableCiscoIMGroupProtocol

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

クライアントを `ciscoimgroup:` URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscoimgroup: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは `ciscoimgroup: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoIMGroupProtocol>>false</EnableCiscoIMGroupProtocol>`

EnableCiscoIMProtocol

Cisco Jabber for Android, Cisco Jabber for iPhone、Cisco Jabber for iPad、および Cisco Jabber for Windows に適用されます。

クライアントを `ciscoim: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscoim: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは `ciscoim: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoIMProtocol>>false</EnableCiscoIMProtocol>`

EnableCiscoTelConfProtocol

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

クライアントを `ciscotelconf: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscotelconf: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは `ciscotelconf: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoTelConfProtocol>>false</EnableCiscoTelConfProtocol>`

EnableCiscoTelProtocol

Cisco Jabber for Android, Cisco Jabber for iPhone、Cisco Jabber for iPad、および Cisco Jabber for Windows に適用されます。

クライアントを `ciscotel: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscotel: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは `ciscotel: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoTelProtocol>>false</EnableCiscoTelProtocol>`

EnableClickToCallProtocol

Cisco Jabber for Android, Cisco Jabber for iPhone、Cisco Jabber for iPad、および Cisco Jabber for Windows に適用されます。

クライアントを clicktocall: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは clicktocall: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは clicktocall: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableClickToCallProtocol>>false</EnableClickToCallProtocol>`

EnableConvertNumberToURI

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがチャットウィンドウで数字を入力した際に、Cisco Jabber がその番号を SIP URI に変換するかどうかを指定します。

- true (デフォルト): Cisco Jabber が、番号を SIP URI に変換します。
- false: Cisco Jabber は、SIP URI に番号を変換しません。

例 :

`<EnableConvertNumberToURI>>false</EnableConvertNumberToURI>`

EnableForensicsContactData

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

連絡先に関連する問題を報告する際、ユーザの連絡先フォルダが Problem Reporting Tool (PRT) によって収集されるかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 連絡先フォルダが PRT ツールによって収集されます。
- false : 連絡先フォルダは RRT ツールによって収集されません。

例 : `<EnableForensicsContactData>>false</EnableForensicsContactData>`

EnableGroupCallPickup

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

コールピックアップグループ番号を入力して、ユーザが別のコールピックアップグループの着信コールをピックアップできるかどうか指定します。

- true : グループ コール ピック アップを有効にします。
- false (デフォルト) : グループ コール ピックアップを無効にします。

例 : `<EnableGroupCallPickup>true</EnableGroupCallPickup>`

EnableHuntGroup

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがハント グループにログインできるかどうか指定します。

- true : ユーザは、ハント グループにログインできます。
- false (デフォルト) : ユーザはハント グループにログインできません。

例 : `<EnableHuntGroup>true</EnableHuntGroup>`

EnableIMProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを im: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは im: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは im: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableIMProtocol>>false</EnableIMProtocol>`

EnableLocalAddressBookSearch

Windows 版 Cisco Jabber および モバイルクライアントに適用されます。

ユーザがローカルの連絡先を検索できるかどうかを指定します。Jabber Windows クライアントでは、ユーザはこれらのローカル連絡先を連絡先リストに追加することもできます。

- true (デフォルト) : ユーザは連絡先を検索できるようになります。
- false: ユーザは連絡先を検索することはできません。

モバイルクライアント(電話専用モード)の場合、Jabberが開始すると、すべてのローカル連絡先がJabberの連絡先リストにインポートされます。ユーザに対してこの設定を無効にするオプションがあります。

例 : `<EnableLocalAddressBookSearch>>false</EnableLocalAddressBookSearch>`



(注) これらのパラメータは、カレンダー統合と連絡先解決のために効果を発揮します。

- CalendarIntegrationType
- EnableLocalAddressBookSearch
- EnableLotusNotesContactResolution

詳細に関しては、*Feature Configuration for Cisco Jabber* ガイドを参照してください。

EnableLotusNotesContactResolution

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザがローカル IBM Notes 連絡先を検索して自分の連絡先リストに追加できるようにします。

- true : ユーザは、IBM Notes のローカル連絡先を検索し、自分の連絡先リストに追加できます。



(注) EnableLocalAddressBookSearch パラメータも true に設定する必要があります。

- false (デフォルト) : ユーザは IBM Notes のローカル連絡先を検索することも、自分の連絡先リストに追加することもできません。

例 : <EnableLotusNotesContactResolution>true</EnableLotusNotesContactResolution>



(注) これらのパラメータは、カレンダー統合と連絡先解決のために効果を発揮します。

- CalendarIntegrationType
- EnableLocalAddressBookSearch
- EnableLotusNotesContactResolution

詳細に関しては、*Feature Configuration for Cisco Jabber* ガイドを参照してください。

EnableLotusNotesCLibrarySupport

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

IBM Lotus Notes で C Library を使用するかを指定します。

- true (デフォルト): Notes C Library
- false: Notes C++ Library

例: <EnableLotusNotesCLibrarySupport>true</EnableLotusNotesCLibrarySupport>

EnableMediaStatistics

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

コール中のリアルタイム音声およびビデオ統計情報の表示を許可します。

- true (デフォルト) : コール中にリアルタイム音声およびビデオ統計情報を表示できます。
- false (デフォルト) : コール中にリアルタイム音声およびビデオ統計情報を表示できません。

例: <EnableMediaStatistics>FALSE</EnableMediaStatistics>

EnableOtherGroupPickup

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザが、自分のコール ピック アップ グループに関連付けられたグループ内の着信コールをピックアップできるかどうか指定します。

- true : 別グループ コール ピック アップを有効にします。
- false (デフォルト) : 別グループ コール ピックアップを無効にします。

例: <EnableOtherGroupPickup>true</EnableOtherGroupPickup>

EnableP2PDesktopShare

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザは、通話中でない場合に、画面を共有できます。

- true (デフォルト) : ユーザは画面を共有できます。
- false : ユーザは一对一画面共有を実行できません。

例: <EnableP2PDesktopShare>>false</EnableP2PDesktopShare>

EnableProfileProtocol

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `profile:` プロトコルのプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。`profile:` プロトコルは、他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル (Profile)] 画面を表示します。

- `true` (デフォルト) : クライアントは `profile:` プロトコルのプロトコルハンドラとして登録されます。
- `false` : クライアントは `profile:` プロトコルのプロトコルハンドラとして登録されません。

例: `<EnableProfileProtocol>>false</EnableProfileProtocol>`

EnablePromoteMobile

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

Cisco Jabber モバイルクライアントを促進するためのユーザ通知が、Cisco Jabber クライアントに表示されるかどうかを指定します。

- `true`: モバイルクライアントをダウンロードする通知がクライアントに表示されます。
- `False` (デフォルト): 通知は表示されません。



(注) Cisco Jabber がフル UC モードで展開されている場合、ユーザは、有効にした後に 1 回だけこの通知を受信します。Cisco Jabber が電話専用モードで展開されている場合、そのユーザに対してモバイルデバイスが設定されている場合に限り、通知が表示されます。

ユーザへの通知のデフォルトテキストを変更するには、キー `PromotionWelcomeText` を設定し、承認する入力値を `text` と設定します。

また、ダウンロードリンクを変更するには、Android 版では、`AndroidDownloadURL` パラメータを設定し、iOS 版では、`IOSDownloadURL` を設定します。デフォルトでは、これらのパラメータは、ユーザを Google Play ストアまたは Apple のアプリストアの Cisco Jabber ダウンロードページにリダイレクトするように設定されています。

例: `<EnablePromoteMobile>>false</EnablePromoteMobile>`

```
< PromotionWelcomeText > Android 版 Cisco Jabber アプリをダウンロードします。
</PromotionWelcomeText >
```

```
< AndroidDownloadURL > www.example.com/download </AndroidDownloadURL >
```

```
< IOSDownloadURL > www.example.com/download </IOSDownloadURL >
```

EnableProvisionProtocol

Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for iPhone and iPad、および Cisco Jabber for Mac に適用されます。

クライアントを URL プロビジョニングのプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : クライアントは URL プロビジョニングのプロトコルハンドラとして登録されます。
- **false** : クライアントは URL プロビジョニングのプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableProvisionProtocol>false</EnableProvisionProtocol>`

EnableSaveChatToFile

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

また、ユーザは、Webex のローカルアーカイブを (組織管理 > ローカルアーカイブポリシー)、または IM および Presence サーバーの Cisco Unified Communications Manager (メッセージ > 設定 > クライアントでインスタントメッセージ履歴の記録を許可) を有効にする必要があります。

ユーザがチャットを右クリックすると、HTML でファイルシステムに保存できるようにします。

- **true** (デフォルト): ユーザは、チャットをファイルに保存できるようになります。
- **false** : ユーザは、チャットをファイルに保存できなくなります。

例 : `<EnableSaveChatToFile>false</EnableSaveChatToFile>`

EnableShareProtocol

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを share: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。share: URI は、Cisco Jabber を介して他のアプリケーションのファイルやメッセージを連絡先と共有します。

- **true** (デフォルト) : クライアントは share: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- **false** : クライアントは share: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableShareProtocol>false</EnableShareProtocol>`

EnableSingleNumberReach

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザが、単一番号リーチのオプションにアクセスできるかどうかを指定します。

ユーザは、単一番号リーチがCisco Unified Communications Manager で設定されており、EnableSingleNumberReach パラメータが有効の場合のみ、単一番号リーチにアクセスできます。

- true (デフォルト): 単一番号リーチがCisco Unified Communications Manager で設定されている場合、ユーザは、単一番号リーチにアクセスできます。
- false: ユーザは、単一番号リーチのオプションにアクセスできません。

例 :

```
<EnableSingleNumberReach>true</EnableSingleNumberReach>
```

EnableSIPProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを sip: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは sip: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは sip: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : <EnableSIPProtocol>>false</EnableSIPProtocol>

EnableSIPURIDialling

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Cisco Jabber で URI ダイヤリングを有効にし、ユーザが URI にコールを発信できるようにします。

- true (デフォルト): ユーザは、URI を使用して通話が可能になります。



(注) リリース 12.6 では、Webex コラボレーションミーティングルームのミーティングコントロールをサポートするために、デフォルト値を「true」に変更しました。

- false: ユーザは URI を使用して通話できません。

例 : <EnableSIPURIDialling>true</EnableSIPURIDialling>

EnableStatusProtocol

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを status: プロトコルのプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。status: プロトコルは、他のアプリケーションから [プレゼンス (Presence)] または [プレゼンスの編集 (Edit Presence)] 画面を表示します。

- true (デフォルト) : クライアントは status: プロトコルのプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは status: プロトコルのプロトコルハンドラとして登録されません。

例: `<EnableStatusProtocol>false</EnableStatusProtocol>`

EnableTelephonyProtocolRateLimit

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

テレフォニー プロトコル ハンドラをクライアントで使用する回数に上限があるかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : テレフォニープロトコルハンドラを実行するためのレート制限が有効です。
- false : テレフォニー プロトコル ハンドラを実行するためのレート制限が無効です。

例: `<EnableTelephonyProtocolRateLimit>false</EnableTelephonyProtocolRateLimit>`

EnableTelProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを tel: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは tel: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは tel: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例: `<EnableTelProtocol>false</EnableTelProtocol>`

EnableTelProtocolPopupWindow / CiscoTelProtocolPermissionEnabled

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスは、ユーザが `ciscotel:uri` リンクをクリックした後、Cisco Jabber を使用してコールを発信するかどうかを確認するための情報を提供します。

- **true** (デフォルト) : ダイアログボックスが有効になり、ユーザはコールの発信を確認するように要求されます。
- **false** : ダイアログボックスが無効になり、確認を求めることなくコールが発信されます。これは、間違い電話や迷惑電話の原因になる場合があります。



(注) `CiscoTelProtocolPermissionEnabled` パラメータは `EnableTelProtocolPopupWindow` パラメータに置き換わります。どちらのパラメータもクライアント内でサポートされますが、どちらかのパラメータが `false` に設定されるとダイアログボックスが無効になります。

例 : `<CiscoTelProtocolPermissionEnabled>>false</CiscoTelProtocolPermissionEnabled>`

EnableVideo

Cisco Jabber のビデオ コール中にビデオ機能を有効または無効にします。

- **true** (デフォルト) : ユーザはビデオ コールを発信したり受信したりできます。
- **false** : ユーザはビデオ コールを発信したり受信したりできません。

例 : `<EnableVideo>>false</EnableVideo>`

EnableVoicePush

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco jabber が Cisco Jabber が非アクティブであっても、通話中に音声およびビデオプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。

自動退席中のタイマーを設定するオプションは、プッシュ通知が有効になっている場合は使用できません。

- **true** (デフォルト): 通話中の場合は、プッシュ通知が有効になります。
- **false**: プッシュ通知は無効になります。

例: `<EnableVoicePush>>true</EnableVoicePush>`

EnableXMPPProtocol

Cisco Jabber for Android, Cisco Jabber for iPhone、Cisco Jabber for iPad、および Cisco Jabber for Windows に適用されます。

クライアントを xmpp: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは xmpp: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは xmpp: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : <EnableXMPPProtocol>>false</EnableXMPPProtocol>

ForceC2XDirectoryResolution

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザが click-to-x アクションを実行したときに、連絡先情報を解決するためにクライアントがディレクトリのクエリーを実行するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : ユーザが click-to-x アクションを実行したときに、クライアントはディレクトリのクエリーを実行します。
- false : click-to-x アクションが実行されても、クライアントはディレクトリのクエリーを実行しません。



(注) このパラメータは、ユーザが Expressway for Mobile and Remote Access 経由で社内ネットワークに接続している場合は効果がありません。この場合は、UDS が連絡先を解決し、クライアントがディレクトリを照会できません。

例 : <ForceC2XDirectoryResolution>>false</ForceC2XDirectoryResolution>

ForceDevicePin

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは、Jabber の実行をセキュアなデバイス上に限ることを指定します。ForceDevicePin パラメータには、次の値を設定します。

- false (デフォルト): Jabber は、ユーザがデバイスを保護したかどうかを確認しません。
- true : Jabber は、ユーザーがデバイスを保護したかどうかを確認します。

例：

```
<ForceDevicePin>>false</ForceDevicePin>
```

ForceFontSmoothing

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

クライアントがスムーズテキストにアンチエイリアシングを適用するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : クライアントがテキストにアンチエイリアスを適用します。
- **false** : オペレーティング システムがテキストにアンチエイリアスを適用します。

例： `<ForceFontSmoothing>>false</ForceFontSmoothing>`

ForwardVoicemail

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザが他の Jabber のユーザに音声メッセージを転送できるようにするかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : ユーザが音声メッセージを転送できるようにします。
- **false**: ユーザが音声メッセージを転送できないようにします。

例：

```
<ForwardVoicemail>>true</ForwardVoicemail>
```

InitialPhoneSelection

クライアント初回起動時のユーザの電話タイプを設定します。クライアントの初回起動後、ユーザは電話タイプを変更できます。クライアントはユーザ設定を保存し、次の起動時にその設定を使用します。

- **deskphone** : コールにデスクフォン デバイスを使用します。
- **softphone** (デフォルト) : コールにソフトフォン (CSF) デバイスを使用します。

クライアントは次の順序でデバイスを選択します。

1. ソフトフォン デバイス
2. デスクの電話機

ユーザにソフトフォン デバイスを提供しない場合、クライアントはデスクフォン デバイスを自動的に選択します。

例 : <InitialPhoneSelection>deskphone</InitialPhoneSelection>



(注) このパラメータは、仮想環境で展開される Jabber には適用されません。

InstantMessageLabels

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

インスタントメッセージを送信する前にユーザが適用すべき、SECRET や CONFIDENTIAL などのセキュリティラベルのカタログを定義します。ラベルは、送信されるメッセージの前に表示されます。たとえば、「SECRET: メッセージテキスト」のように表示されます。

最大 17 のラベルを指定できます。

Cisco Jabber は、XEP-0258 規格を使用してセキュリティラベルを実装します。詳細については、『*XEP-0258: Security Labels in XMPP*』を参照してください。

Cisco Jabber はこれらのラベルに基づいてメッセージ配信を制御しません。このような制御には、コンプライアンスサーバなどの XEP-0258 ラベルヘッダーをサポートするサードパーティ製品を使用する必要があります。

セキュリティラベルの jabber-config.xml の例 :

```
<InstantMessageLabels>
  <item selector="Classified|SECRET">
    <securitylabel xmlns='urn:xmpp:sec-label:0'>
      <displaymarking fgcolor='black' bgcolor='red'>SECRET </displaymarking>
      <label>
        <edhAttrs xmlns="https://www.surevine.com/protocol/xmpp/edh">
          <specification>2.0.2</specification>
          <version>XXXX:1.0.0</version>
          <policyRef></policyRef>
          <originator>Acme</originator>
          <custodian>Acme</custodian>
          <classification>A</classification>
          <nationalities>Acme</nationalities>
          <organisations>Acme</organisations>
        </edhAttrs>
      </label>
    </securitylabel>
  </item>
  <item...> ... </item>
</InstantMessageLabels>
```

LegacyOAuthLogout

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

展開で、OAuth が有効の場合、Jabber は、ユーザがサインインする際、デフォルトで有効期限切れのリフレッシュトークンをチェックします。リフレッシュトークンの有効期限が切れている場合は、イーサネットはユーザー再認証する必要があります。ユーザーがサインインしてい

る間に更新トークンの有効期限が切れると、Jabber はセッションが期限切れになったというメッセージでログアウトします。

LegacyOAuthLogout パラメーターは、この動作を制御します。使用できる値は次のとおりです。

- **true**: Jabber は有効期限切れのリフレッシュトークンをチェックしません。
- **false** (デフォルト): Jabber は有効期限切れのリフレッシュトークンをチェックします。

例: `<LegacyOAuthLogout>true</LegacyOAuthLogout>`

LogWritingDesktop

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ログをデスクトップクライアントのディスクに書き込むかどうかを指定して、PRT ロギングのセキュリティレベルを定義します。

- **Always** (デフォルト): ログは常に DEBUG レベルでディスクに書き込まれます。クライアントのヘルプメニューにオプションは表示されません。
- **UserCanEnable**: ログをディスクに書き込むかどうかをユーザが設定できます。この値を設定すると、ユーザが有効化または無効化できる **詳細なログ** オプションが、クライアントのヘルプメニューに表示されます。有効にすると、DEBUG レベルのログが作成され、無効にした場合は INFO レベルのログが作成されます。
- **Never**: ディスクにログは書き込まれず、INFO レベルのログが作成されます。PRT を手動で生成する場合は、内部メモリのログが一時ファイルに書き込まれます。この一時ファイルは、PRT の生成後に削除されます。

例: `<LogWritingDesktop>UserCanEnable</LogWritingDesktop>`

INFO レベルのログの場合、ログはメモリ内バッファーにのみ循環して保存されます。

DEBUG レベルのログの場合、メモリ内バッファーがいっぱいになるとディスクに書き込まれます。Jabber をリセットすると、ディスク上のすべてのログが消去されます。

LogWritingMobile

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabber がモバイルクライアントのログをディスクに書き込むかどうかを指定することにより、PRT ログのセキュリティレベルを定義します。

- **Always** (デフォルト): Jabber は常に INFO レベルでディスクにログを書き込みます。クライアントのヘルプメニューにオプションは表示されません。
- **UserCanEnable**: ディスクにログを書き込むかどうかを決定できます。この値を設定する **詳細なログ** オプションが、クライアントのヘルプメニューに表示されます。詳細なログを有

効または無効にすることができます。有効にすると、DEBUG レベルのログが作成されます。無効にした場合は、INFO レベルのログが作成されます。

- **Never:** Jabber はディスクにログを書き込みません。この設定では、INFO レベルのログが作成されます。PRT を手動で生成すると、Jabber はメモリ内のログを一時ファイルに書き込み、PRT 生成後にファイルを削除します。

例: `<LogWritingMobile>UserCanEnable</LogWritingMobile>`

INFO レベルのログの場合、ログはメモリ内バッファにのみ循環して保存されます。

DEBUG レベルのログの場合、Jabber はメモリ内バッファがいっぱいになるとディスクに書き込みます。Jabber をリセットすると、ディスク上のすべてのログが消去されます。

MuteAudioByDefault

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

すべての Jabber での通話で、マイクを自動的にミュートするかを指定します。

- **False** (デフォルト): ユーザのマイクは、Jabber の通話でミュートになりません。
- **true:** ユーザのマイクが、Jabber の通話でミュートになります。

例: `< MuteAudioByDefault >true< > muteaudiobydefault`

Meetings_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアント内でのミーティング機能の有効化 `CalendarIntegrationType` パラメータ (Windows) および `MacCalendarIntegrationType` パラメータ (Mac) は、連携して動作します。

- **true** (デフォルト) : ミーティング機能を有効にし、ミーティングの作成およびミーティング参加のリマインダの受け取りを可能にします。
- **false** : ミーティング機能を無効にします。

例: `<Meetings_Enabled>>false</Meetings_Enabled>`

PreferP2PDesktopShare

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

一対一画面共有がビデオ共有より優先されるように指定します。

- **true** : 一対一画面共有が優先されます。
- **false** (デフォルト) : ビデオ共有が優先されます。

例 : <PreferP2PDesktopShare>true</PreferP2PDesktopShare>

PresenceProtocolRateLimit

Synergy デバイスの Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから [プレゼンス (Presence)] または [プレゼンスの編集 (Edit Presence)] 画面を起動できる回数を指定します。たとえば、PresenceProtocolRateLimit が 3 回で、PresenceProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、他のアプリケーションから [プレゼンス (Presence)] または [プレゼンスの編集 (Edit Presence)] 画面の起動を開始できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : <PresenceProtocolRateLimit>10</PresenceProtocolRateLimit>

PresenceProtocolTimeLimit

Synergy デバイスの Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから [プレゼンス (Presence)] または [プレゼンスの編集 (Edit Presence)] 画面を起動できる制限時間を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例 : <PresenceProtocolTimeLimit>5</PresenceProtocolTimeLimit>

PreventDeclineOnHuntCall

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ハントグループに着信コールがあった場合に、[拒否(Decline)] ボタンを表示するかどうかを指定します。

- true : ハントグループの着信コールに対して [拒否 (Decline)] ボタンは表示されません。
- false (デフォルト) : [拒否 (Decline)] ボタンがハントグループの着信コールで表示されます。

例 : <PreventDeclineOnHuntCall>true</PreventDeclineOnHuntCall>

PrintIMEnabled

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザがチャット ウィンドウの会話を印刷できるようにするかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : 右クリックして [印刷 (Print)] を選択することで、チャット ウィンドウの会話を印刷できます。
- **false** : ユーザはチャット ウィンドウの会話を印刷できません。ウィンドウ内を右クリックしても、メニューに [印刷 (Print)] オプションは表示されません。

例 : `<PrintIMEnabled>>false</PrintIMEnabled>`

ProfileProtocolRateLimit

Synergy デバイスの Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル (Profile)] 画面を起動できる回数を指定します。たとえば、ProfileProtocolRateLimit が 3 回で、ProfileProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル (Profile)] 画面の起動を開始できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : `<ProfileProtocolRateLimit>10</ProfileProtocolRateLimit>`

ProfileProtocolTimeLimit

Synergy デバイスの Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル (Profile)] 画面を起動できる制限時間を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例 : `<ProfileProtocolTimeLimit>10</ProfileProtocolTimeLimit>`

ProvisionProtocolRateLimit

Cisco Jabber for Android に適用されます。

URL プロビジョニングを開始できる回数を指定します。

たとえば、ProvisionProtocolRateLimit が 3 回で、ProvisionProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、URL プロビジョニングにより Cisco Jabber を起動できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : `<ProvisionProtocolRateLimit>10</ProvisionProtocolRateLimit>`

ProvisionProtocolTimeLimit

Cisco Jabber for Android に適用されます。

URLプロビジョニングプロトコルを開始できる制限時間を指定します。1～300秒の値を設定できます。デフォルト値は15秒です。

例：<ProvisionProtocolTimeLimit>10</ProvisionProtocolTimeLimit>

ProvisionProtocolTimeLimit

Cisco Jabber for Android に適用されます。

URLプロビジョニングプロトコルを開始できる制限時間を指定します。1～300秒の値を設定できます。デフォルト値は15秒です。

例：<ProvisionProtocolTimeLimit>10</ProvisionProtocolTimeLimit>

Push_Notification_Enabled

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber が Cisco Jabber が非アクティブであっても、新しい IM 通知がある場合に、Cisco Jabber がプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。

自動退席中のタイマーを設定するオプションは、プッシュ通知が有効になっている場合は使用できません。

- true (デフォルト): 新しい IM がある場合は、プッシュ通知が有効になります。
- false: プッシュ通知は無効になります。

例: <Push_Notification_Enabled>>false</Push_Notification_Enabled>

Recent_Chats_Enabled

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

[ハブ (Hub)] ウィンドウの [チャット (Chat)] タブを使用可能とするかを指定します。このパラメータは電話専用の展開では使用できません。

- true (デフォルト) : [ハブ (Hub)] ウィンドウに [チャット (Chat)] タブを表示します。
- false : [ハブ (Hub)] ウィンドウに [チャット (Chat)] タブを表示しません。

例：<Recent_Chats_Enabled>>false</Recent_Chats_Enabled>

RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できるかどうかを決定できます。詳細については、*On-Premises Deployment for Cisco Jabber* のチャプター *Configure Extend and Connect* を参照してください。

- **true** (デフォルト) : 複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できます。
- **false** : 複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できません。

例 :

```
<RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices>false</RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices>
```

RememberChatList

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabber を再起動した後に、ユーザのチャットリストを保存して復元するかどうかを指定します。

- **On** (デフォルト): パラメータを *on* として設定するか、または空欄のままにすると、Jabber を再起動した後に、ユーザのチャットリストが保存され、復元されます。またクライアントでは、**チャットリストを保存** オプションも使用できます。
- **off**: ユーザのチャットリストは保存されず、クライアントでは、**チャットリストを保存** オプションを使用できません。

例 :

```
<RememberChatList>on</RememberChatList>
```

ScreenShareAuditMessages

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

Cisco Jabber クライアントが、コンプライアンスおよび監査の目的ですべてのユーザアクションに関する情報をプレゼンスサーバに送信できるようにします。

ScreenShareAuditMessages

- **true** : Cisco Jabber は、IM 限定画面共有中のユーザアクションに関する情報をプレゼンスサーバに送信します。
- **false** (デフォルト) : Cisco Jabber は、IM 限定画面共有中のユーザアクションに関する情報をプレゼンスサーバに送信しません。



- (注) この機能を有効にするには、稼働しているすべての Cisco Jabber クライアントがリリース 11.0(1) 以上であることを確認します。古いバージョンのクライアントが実行されている場合、IM 限定画面共有中に収集された情報が、インスタントメッセージとして古い Cisco Jabber クライアントに送信されます。

例 : <ScreenShareAuditMessages>true</ScreenShareAuditMessages>

selfcareURL

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Unified Communications Manager サービスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。

Cisco Unified Communications Manager でデフォルトのサービス プロファイルが選択されなかった場合のセルフケア ポータルの URL を定義します。

例 : <selfcareURL>http://server_name/selfcareURL</selfcareURL>

SelfMuteTone

Windows 版 Cisco Jabber および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがマイクをミュートまたはミュート解除した場合に、Jabber が音声トナーを再生するかどうかを決定します。このトナーは、ユーザ自身だけが聞くことができ、通話または会議の他の参加者は聞くことができません。

- True (デフォルト): ユーザがマイクをミュートまたはミュート解除すると、トナーが再生されます。
- [偽 (false) (false): ユーザがマイクをミュートまたはミュート解除してもトナーは再生されません。

<SelfMuteTone>>false</SelfMuteTone>

ServiceDiscoveryExcludedServices

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

サービス ディスカバリから特定のサービスを除外するかどうかを指定します。

- WEBEX : この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
 - CAS 検索を実行しません。
 - `_cisco-uds`、`_cuplogin`、`_collab-edge` を検索します。

- CUCM : この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
 - `_cisco_uds` を検索しません。
 - `_cuplogin`、`_collab-edge` を検索します。

カンマで区切った複数の値を指定して、複数のサービスを除外できます。

例 : `<ServiceDiscoveryExcludedServices> WEBEX,CUCM </ServiceDiscoveryExcludedServices>`

ServicesDomainSsoEmailPrompt

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザのホーム クラスタを決定する際に、ユーザに対して電子メール プロンプトを表示するかどうかを指定します。

- ON : プロンプトが表示されます。
- OFF (デフォルト) : プロンプトは表示されません。

例 : `<ServicesDomainSsoEmailPrompt>ON</ServicesDomainSsoEmailPrompt>`

SharePortRangeSize

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

`SharePortRangeStart` パラメータと一緒に使用された場合にポート範囲のサイズを指定します。最小値は 40 です。 `SharePortRangeStart` パラメータに加算されたときの値は 65535 を超えることができません

ポート範囲の詳細については、『*Planning Guide for Cisco Jabber*』の「*Ports and Protocols*」のトピックを参照してください。

例 :

```
<Policies>
<SharePortRangeStart>45130</SharePortRangeStart>
<SharePortRangeSize>100</SharePortRangeSize>
</Policies>
```

SharePortRangeStart

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

このパラメータは、ユーザがチャットウィンドウから画面を共有するときに使用するポート範囲を指定する `SharePortRangeSize` と一緒に使用します。

これらのパラメータを設定しなかった場合は、クライアントがIM画面共有のデフォルトのポート範囲（49152～65535）を使用します。デフォルトポート範囲の詳細については、『Cisco Jabber Planning Guide』の「Ports and Protocols」のトピックを参照してください。

ユーザが入力した値によって、ポート範囲の先頭が指定されます。最小値は1024です。65535 - SharePortRangeSize を超える値は指定できません。

例：

```
<Policies>
<SharePortRangeStart>45130</SharePortRangeStart>
<SharePortRangeSize>100</SharePortRangeSize>
</Policies>
```

この例では、ポート範囲 45130～45230 が設定されます。

ShareProtocolRateLimit

Cisco Jabber for Android に適用されます。

ファイルまたはメッセージの共有を開始できる回数を指定します。たとえば、ShareProtocolRateLimit が 3 で ShareProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは 15 秒の間に 3 回まで Cisco Jabber によるファイルまたはメッセージの共有を開始できます。

1～100の値を設定できます。デフォルト値は3です。

例：<ShareProtocolRateLimit>10</ShareProtocolRateLimit>

ShareProtocolTimeLimit

Cisco Jabber for Android に適用されます。

ファイルまたはメッセージの共有を開始できる制限時間を指定します。1～300秒の値を設定できます。デフォルト値は15秒です。

例：<ShareProtocolTimeLimit>10</ShareProtocolTimeLimit>

ShowSelfCarePortal

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

[オプション (Options)] ダイアログに [セルフケアポータル (Self Care Portal)] タブを表示するか指定します。

- true (デフォルト) : [オプション (Options)] ダイアログに [セルフケアポータル (Self Care Portal)] タブを表示します。
- false : [オプション (Options)] ダイアログに [セルフケアポータル (Self Care Portal)] タブを表示しません。

例 : <ShowSelfCarePortal>false</ShowSelfCarePortal>

SoftPhoneModeWindowBehavior

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザがソフトフォン制御モードでコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- **OnVideo** : [会話 (Conversation)] ウィンドウはビデオコールに対してのみ表示されます。
- **OnCall (デフォルト)** : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation)] ウィンドウが表示されます。
- **Never** : コールへの応答時に [会話 (Conversation)] ウィンドウは表示されません。

例 : <SoftPhoneModeWindowBehavior>Never</SoftPhoneModeWindowBehavior>

SSO_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがシングルサインオン (SSO) を使用してサインインするかどうかを指定します。

- **true (デフォルト)**: ユーザは SSO を使用してサインインします。
- **false**: ユーザはサインインに SSO を使用しません。

例 : <SSO_Enabled>FALSE</SSO_Enabled>

TelemetryEnabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Cisco Jabber クライアントが分析データを収集するかどうかを指定します。ユーザエクスペリエンスと製品パフォーマンスを向上させるために、Cisco Jabber クライアントは分析データを収集することがあります。

- **true (デフォルト)** : 分析データが収集されます。
- **false** : 分析データは収集されません。

例 : <TelemetryEnabled>>false</TelemetryEnabled>

TelemetryEnabledOverCellularData

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

分析データを Wi-Fi 経由で送信するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : 分析データが Wi-Fi とモバイル データ接続経由で送信されます。
- **false** : 分析データは Wi-Fi 接続経由でのみ送信されます。

例 : `<TelemetryEnabledOverCellularData>false</TelemetryEnabledOverCellularData>`

TelemetryCustomerID

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

分析情報の送信元を指定します。これは、個々のお客様を明示的に識別する文字列またはお客様を識別することなく共通送信元を識別する文字列です。Global Unique Identifier (GUID) 生成ユーティリティを使用して、36 文字の一意の ID を生成するか、逆ドメイン名を使用することをお勧めします。次のユーティリティで GUID を生成できます。

- Mac OS X : `uuidgen`
- Linux : `uuidgen`
- Microsoft Windows : `[guid]::NewGuid().ToString()` または (cmd.exe から) `powershell -command "[guid]::NewGuid().ToString()"`
- オンライン : `guid.us`

GUID を生成する際に使用した方法には関係なく、この識別子はグローバルに一意である必要があります。

例 : `<TelemetryCustomerID>customerIdentifier</TelemetryCustomerID>`

TelephonyProtocolRateLimit

Cisco Jabber for Windows、Cisco Jabber for Mac および Cisco Jabber for Android に適用されます。

テレフォニープロトコルハンドラ (tel、ciscotel、sip) のいずれかからコールを開始できる回数を指定します。たとえば、TelephonyProtocolRateLimit が 2 で、TelephonyProtocolTimeLimit が 10 秒の場合、ユーザは、10 秒ごとに 2 回、テレフォニープロトコルハンドラのいずれかからコールを開始できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 2 です。



(注) 同時に 1 つのプロトコルハンドラのみを処理できます。ユーザがすでにコールアラートを受信している場合、着信した他のプロトコルハンドラは破棄されるかキューに収容されます。

例 : `<TelephonyProtocolRateLimit>10</TelephonyProtocolRateLimit>`

TelephonyProtocolTimeLimit

Cisco Jabber for Windows、Cisco Jabber for Mac および Cisco Jabber for Android に適用されます。

TelephonyProtocolRateLimitがヒットまたはリセットされる前に、ユーザがテレフォニープロトコルハンドラ（sip、tel、ciscotel）のいずれかからコールを開始できる制限時間を指定します。テレフォニープロトコルハンドラのいずれかからコールを開始するまでの時間のデフォルト値は、2回の試行ごとに10秒です。1～300秒までの値を設定できます。

例：<TelephonyProtocolTimeLimit>10</TelephonyProtocolTimeLimit>

Telephony_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで音声およびビデオ機能とユーザ インターフェイスを有効にします。

- true（デフォルト）：音声およびビデオ機能とユーザ インターフェイスを有効にします。
- false：音声およびビデオ機能とユーザ インターフェイスを無効にします。

クライアントがIM専用モードに対して有効になっている場合は、このパラメータをfalseに設定します。IM限定モード展開でこのパラメータを設定しない場合、ユーザ インターフェイスではテレフォニー機能が無効であると表示される場合があります。

例：<Telephony_Enabled>>false</Telephony_Enabled>

UserDefinedRemoteDestinations

Cisco Jabber for Windows に適用されます。

ユーザはクライアントインターフェイスからリモートの接続先を追加、編集、および削除できます。拡張機能と接続機能を提供するときに、このパラメータを使用して、デフォルトの動作を変更できます。

デフォルトでは、ユーザのデバイスリストにCTIリモートデバイスしかない場合、クライアントではユーザがリモートの接続先を追加、編集、削除できません。これは、ユーザが割り当てられた専用リモートデバイスを修正できないようにするためです。ただし、ユーザのデバイスリストにソフトフォンデバイスまたはデスクフォンデバイスが含まれる場合、クライアントはユーザがリモート接続先を追加、編集、および削除できるようにします。

- true：ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できます。
- false（デフォルト）：ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できません。

例：<UserDefinedRemoteDestinations>>true</UserDefinedRemoteDestinations>

Voicemail_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントでボイスメール機能とユーザ インターフェイスを有効にします。

- **true** (デフォルト) : ボイスメール機能とユーザ インターフェイスを有効にします。
- **false** : ボイスメール機能とユーザ インターフェイスを無効にします。

例 : <Voicemail_Enabled>false</Voicemail_Enabled>

VoiceServicesDomain

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

`_collab-edge` と `_cisco-uds` の DNS SRV レコードを設定する DNS ドメインを表す完全修飾ドメイン名を指定します。

例 : 次のような DNS SRV レコードがある場合

- `_collab-edge._tls.voice.example.com`
- `_cisco-uds._tcp.voice.example.com`

VoiceServicesDomain の値は `voice.example.com` になります。

WhitelistBot

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

WhitelistBot にリストされるボットのみが、グループチャット、電話会議、インスタントミーティングに参加できます。WhitelistBot の設定パラメータが定義されていない場合は、デフォルト値は、AdminConfiguredBot で定義した JID となります。

Cisco Jabber では、* 特殊文字のように、WhitelistBot の正規表現を使用できます。たとえば、「*」はクライアントからくる「robot-type」メッセージを開くか、`{bot}*{@cisco.com}` は、`bot1@cisco.com` や `bot_thisworks@cisco.com` など、bot で始まる JID をホワイトリストします。

例:<WhitelistBot>bot1@example.com;bot2@example.com;bot3@example.com</WhitelistBot>

